

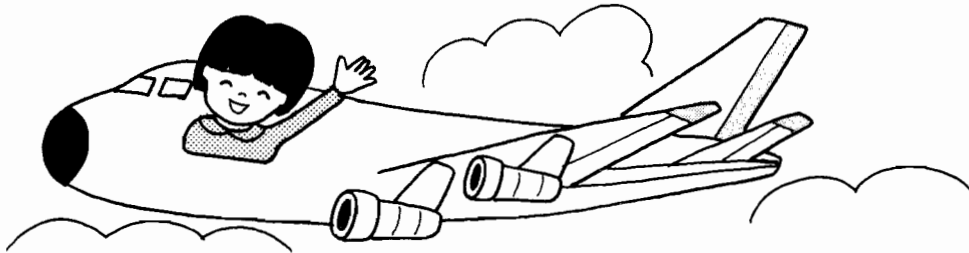
- 大和なでしこのカナダ旅行記 前編 -

☆日本からバンクーバーまでの長～い道のり☆

日本からバンクーバーまで太平洋をひとつ飛び、直行便で行くと約8時間で行ける所。今回は経費節約と思い、流行の格安航空券の中でも一番安い航空会社で行ったら、なんと15時間もかかってしまいました。とって、特にこの会社の飛行機が遅いというわけではなくて、途中1回、トランジット（飛行機の乗り換え）があったからなんです。トランジットがあると、待ち時間が3時間とかロスタイムが多いですね。（だから安いのかな？その辺はよくわからないけど。）

安いっていくら位を想像しますか？航空券の値段って出発日の時期にすごく左右されます。私が出かけた4月20日は一年の内でも最も安い時期だったようです。その会社の切符は1年オープン（帰る日が一年以内で購入時には決まっていなくてよいもの）で往復12万円！！帰る日も決めていれば、9万円のもありました（但し、3カ月以内）。ちなみにこの航空会社は日本ではありません。日本の航空会社って本当に高いですね！5、6万円は差があったと思う。（でもこれは飛行機切符の値段に限った事ではないけれど・・・）

日本からの飛行機でアメリカ人ばい同じ歳くらいの女性と隣り合わせになりました。つたない英語で「どこの出身？」と聞くと「イギリス。ウェールズよ」って答えてくれました。これからアメリカ方面に行くせいだけではなく、目の青い人を見るとついアメリカ人と思ってしまう・・・。反省。



今回の旅行は、プロップ・ステーションに参加してからは初めての海外旅行というわけで、障害者の為の設備がとても気になりました。同時に障害者が日本と比べてどれくらいの頻度で外出しているのかということも気にかかりました。トランジット先でまず一人、車椅子の男性を見かけました。やっぱり外国には障害を持っている人がよく出歩いているなあなどと、1人見ただけで納得してしまっただ。実は大阪空港でも車椅子は見かけたけれど、それはただ空港の備品だったわけ……。乗っている人を実際に見たのはこれが初めてでした。

4月20日午後3時30分大阪空港を出発してから約15時間後、バンクーバーに到着したのが、現地時間で20日午後3時。太平洋の日付変更線をまたいで来たから、私は4月20日をまたやり直すことになるんです（1日得した気分です）。

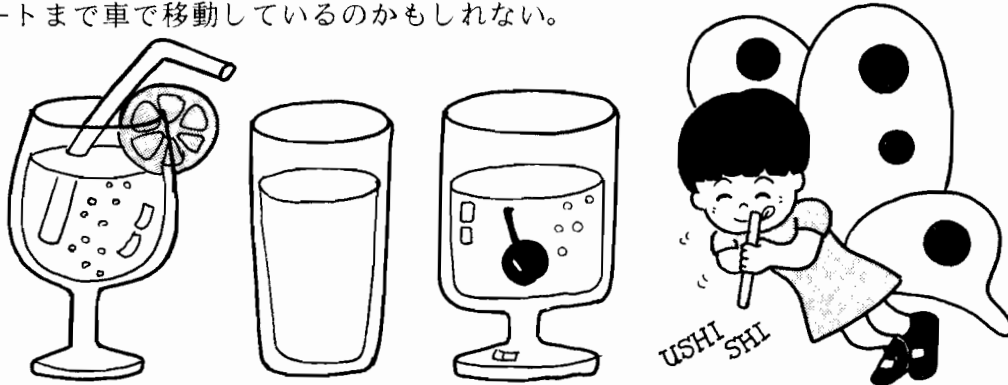
☆バンクーバーの第一印象☆

バンクーバーの気温はこちらとほとんど同じように感じました。例年、2、3月は雨期でずーっと雨降りが続いているようですが、今年は異常気象で4月に入ってから雨がよく降るということでした。私が着いた20日も始めは曇っていたけど、結局雨が降ってしまいました。雨が降っていても日本のようにじめじめした感じはありませんでした。普段、空気がとても乾燥しているせいもあるのでしょうね。よく喉が乾き、ジュースをよく飲んでいました。

今回、滞在していた場所は、ダウンタウン（中心街）から電車（スカイトレイン）で30分位のメトロタウン。大学時代のバドミントン部の後輩の妹さん（双子！！）がたまたまこの時期、バンクーバーで生活しているという情報をキャッチ。もちろん、この2人とは初対面！にも関わらず、空港まで迎えに来てもらい、おまけに2人のアパートに転がり込んでしまった。（アツカマシ…）家の中はまだ暖房がきいているのか、常にTシャツでOKでした（外はまだちょっと肌寒い感じ）。私がバンクーバーで見たどの家の前にも必ず、芝生の庭があり、特に今の季節（4～5月）は本当に緑がきれいでした。

空港からメトロタウンまでバスとスカイトレインを乗り継いで駅の設備をチェック。さすがですね。全てのスカイトレインの駅にエレベーターがあり、車椅子の人にもアクセシブルです。私も大きなスーツケースを持っていたので利用させてもらいました。バスはリフト付と想像していましたが、路線バスにリフト付というのは見かけませんでした。ただ、バスの時刻表に車椅子マークが付いていることから利用可能なようです。確認したわけではないですが、車椅子利用者がバスに乗ろうとすると運転手や回りの人が介助するのではないかと思います。ハードの不備をソフト面（人的介助）でカバーしているのです。ここでも日本との差を見せつけられたって感じがしました。

メトロタウンのデパートやスーパーは、エレベーターで容易に行き来できるようになっていました。また、トイレは障害者用マークはないものの全部洋式で入り口が広がっていることから利用可能かと思われます。デパートの周辺も段差が交差点の部分でカットされ解消されていました。しかし、徒歩15分くらいしかデパートと離れていないアパート周辺の歩道は段差だらけでした。実際アパート付近で車椅子の人を見かけることはありませんでした。車椅子の人は家からデパートまで車で移動しているのかもしれない。



☆ 1泊2日ビクトリア旅行☆

ビクトリアは、バンクーバーと同じブリティッシュ・コロンビア州（BC）なんですが、バンクーバー島にあるため、フェリーを利用しなければならず、バンクーバーからは約3時間30分かかります。気候はバンクーバーと同じ位。ビクトリアはBC州の州都のせいか、多くの建物にバンクーバーよりも英国色が濃く映し出されているように感じました。

カナダは障害者のための設備・制度の面では日本よりずっと進んでいると聞いていたのですが、果たして……。フェリーの客室は2階層になっていましたが、車椅子用のエレベーターがちゃんとありました。エレベーターの中に乗る事はできませんでしたが、2階で大きな体格の電動車椅子に乗った男性を見かけました。エレベーターの狭さを心配するのは野暮だったかな？ フェリーの中には子供の遊び場（滑り台等を配した8畳ほどのスペース）も設けられていました。



【フェリーの中にあった車椅子や子供連れの親子用エレベーター】

ビクトリアに着いたらまずインフォメーションセンターを訪れました。ここで、ビクトリア観光のメインスポットとでもいうべき、THE BUTCHART GARDENSへの行き方（どこのバス停の、何番のバスに乗るかということ）を教えてもらいました。何か所か観光スポットを回るツアー（日本人相手のじゃなくて）もありましたが、ゆっくりのんびり気ままに回りたいこと、料金が自分で回った方がはるかに安いということから参加しませんでした。一人で回るのは、常に”バスや道がこれであっているのか”という不安がつきまといいますが、まちがえていたら引き返せばいいし、時間が自由、束縛されないという点で止められません。

THE BUTCHART GARDENS。ビクトリア中心街から約2.1kmのところにある庭園ですが、庭園といっても規模が違う。13.2万坪の敷地内にある6万坪を超える広さ！！この庭園はロバート・ビーム・ブッチャート夫妻によって石灰岩採石場廃坑の荒地から作り始められた。（ブッチャート氏はセメント会社の社長）ブッチャート夫妻の世界旅行を通して入手された、珍しい異国情緒豊かな灌木や樹木またその他の草花が巧みに配置されていた。日本庭園もあることから、ブッチャート夫妻は日本にも来られたことがあるんだなぁと想像しつつ・・・。

桜は終わっていたけれど、チューリップに水仙が満開でした。満開の左隣の花壇には咲き終わったチューリップが、右側にはつぼみをつけたチューリップの花壇がありました。ここの美しさの秘密をかいま見た気がしました。

園内、どこにいてもため息もんの美しさです（ただし、日本庭園はわび・さびの精神を重んじているのか、他に比べ暗い感じがした）。私は、腕もカメラもたいしたことないですが、ここでとった写真は、絵はがきで売られているのと同じかそれ以上！！（といったらオーバーですが・・・）

バンクーバーに行く機会があれば、是非行ってもらいたい”絶対お勧めスポット”です。なんか、心がすーっとする感じが味わえますよ。お花って不思議な力がありますね。

すばらしいのはお花だけではなくませんでした。最初に感激したのは入り口のきれいな花ですが、次に感激したのが料金所でのパンフレットの種類の多い事！！といっても内容は全部同じ。書いてある言葉が違うのです。英語、中国語、仏語、独語、伊語、日本語、スペイン語、露語、ウクライナ語、デンマーク語、蘭語。パンフレットに記載されているだけで、11ヶ国語。いかに世界中の人に愛されているかが伺えますね。海外に行くとコミュニケーションの障害は誰でも感じる事ですが、ここのパンフレットはそれを解消してくれます。

また、園内何カ所か階段がありましたがそれを避けても一周できるようになっていました。ここでは、レストランに入っていく車椅子のお年寄りを見かけました。



この日、実は前日の夜にビクトリアへ行こうと思い立ったもんだから、宿泊先を全く予約せずに来てしまいました。無謀と言われそうですが・・・。観光シーズンにもまだ少し早めの時期だし、水曜日の平日とたかをくくっていた。

THE BUTCHART GARDENSに着くまでは、時間の余裕がなくて予約を入れる電話もできず、結局予約し始めたのが、3時すぎ。予定していた2件ともFULLでどうしよう・・・。3件目、1部屋だけ空いていると言われ、ほっ。B & B (Bed & Breakfast) と呼ばれる朝食付き宿泊所で泊まる事ができました。宿泊所と言っても外には看板も何も出しておらず、通り (Street) の名前と番地だけを頼りに探し当てるんです。入り口に10段ほどの階段があり、車椅子では利用できそうにありませんでした。中も普通のおうちって感じです。ただ、各部屋にバスとトイレがついているのが日本の民宿とは違いますね。（次号に続く…）